

## 小学校5年 道徳 【生命尊重】

1 資料名 「わたしのいもうと」松谷みよ子作（出典 偕成社）

### 2 資料の概要と教師の願い

松谷みよ子さんに届いた手紙を基に書かれた絵本である。転校した先の学校でささいなことをきっかけにして妹へのいじめは始まった。いじめはエスカレートしていき、妹は学校に行けなくなり、そのうちに生きていくことさえもできなくなっていく。その様子を見守る母や姉の姿も描かれている。

いじめはよくないと誰もが頭では分かっているが、この話の中の「妹」のように実際に被害を受けた側の様子を知ることにより、その人自身を否定することの残酷さを感じ取ることができるのではないかと考え、この資料を選んだ。

### 3 授業の実際と児童の反応

授業では、いじめにあった妹の気持ちを中心にみんなで考えていった。子どもたちは妹のつらい気持ちに寄り添いながらいじめの残酷さを感じることができた。また、何もしない傍観者も同じように加害者であることに気付くことができた。

#### ～授業記録より～

T 誰にも口をきいてもらえなくて、満足でもひとりぼっちだった妹はどんな気持ちだったと思いますか。

C1 すごくさびしかったと思う。

C2 ふうふう満足はとても楽しいものなのに、全然楽しくなかったと思う。

<中略>

T 妹はどうしてご飯を食べようとしなかったんだろう。

C3 つらくて食欲もなかったんだと思う。

C4 もう生きていたくなかった。

C5 死んだ方がいいと思っていて、わざと食べなかったんだと思う。

子どもたちは、授業を進めていく中で、妹のつらい気持ちに共感しながら、いじめの悲惨さを感じていた。

#### ～児童の感想より～

誰もその子がいじめているとは思わず、悪口を言ったりするのがとてもひどいと思いました。それに誰か一人でも口をきいてあげて相談に乗ってあげれば妹の気持ちも変わっていただろうし、元気になってしっかりご飯も食べて大人になっていたのに、かわいそうだと思いました。

## 小学校5年 道徳 【信頼・友情 生命尊重】

1 資料名 「いじめのスパイラル」（全国中学生人権作文コンテスト入賞作文）  
「わたしのいもうと」松谷みよ子作（出典 偕成社）

### 2 資料の概要と教師の願い

1時間目の資料として、いじめに関する作文を活用し、2時間目は、いじめを題材とした絵本を採用し、2週続けて重点的に取り組んだ。

「いじめのスパイラル」では、何気なく言った一言が相手を深く傷つけ、そのことがいじめに結び付くという、いつでも、どこでも、誰にでも起こりうる事例を通して、自らの言動について振り返らせたいと考えた。「わたしのいもうと」では、差別や偏見が相手の心を傷つけるだけでなく、時に相手の命を奪うこともあるという事例を通して、「いじめは決して許されない行為」であることを強く感じ取らせたいと考えた。

#### ～児童の作文より～

言葉は、たった一言で人を傷つけてしまうこともあるし、人の心を温かくすることもできます。私は、道徳の時間を通して、改めて「ほかほか言葉」が、当たり前のようにあふれる学校にしていきたいと思いました。

### 3 授業の実際と児童の反応

#### 1時間目 いじめのスパイラル

友達の一音が矢のように突き刺さった過去を思い出す子どもや、自分の目の前でいじめがあっても、自分が被害者になりたくないから助けてあげられないだろうと正直に表現する子どもが見られた。「自分に何ができるだろう」と投げかけた際には、直接助けてあげられなくても、「ありがとう」「素敵だね」「大丈夫？」などの温かい言葉がけなら実践できるという発言も見られた。この時間を通して、子どもたちは友達との関わり方を見つめ直すとともに、言葉の力についても改めて考えることができた。

#### 2時間目 わたしのいもうと

教師が資料を読んだ後、感想を話し合ったが、「なぜ、相談しなかったのだろう」「なぜ、死を選んだのだろう」と考える子どもが多かった。ただ、死に迫いやった子どもたちが、何もなかったかのように楽しく成長していくことに対して、不快を感じる子どももいた。授業後には、「同じ人間なのに差別されるのはひどい」「家族みんなが悲しくなる」「いじめはとてもこわい」など、いじめが悪い行為であることを再認識した感想が多くみられた。